

下水道特集

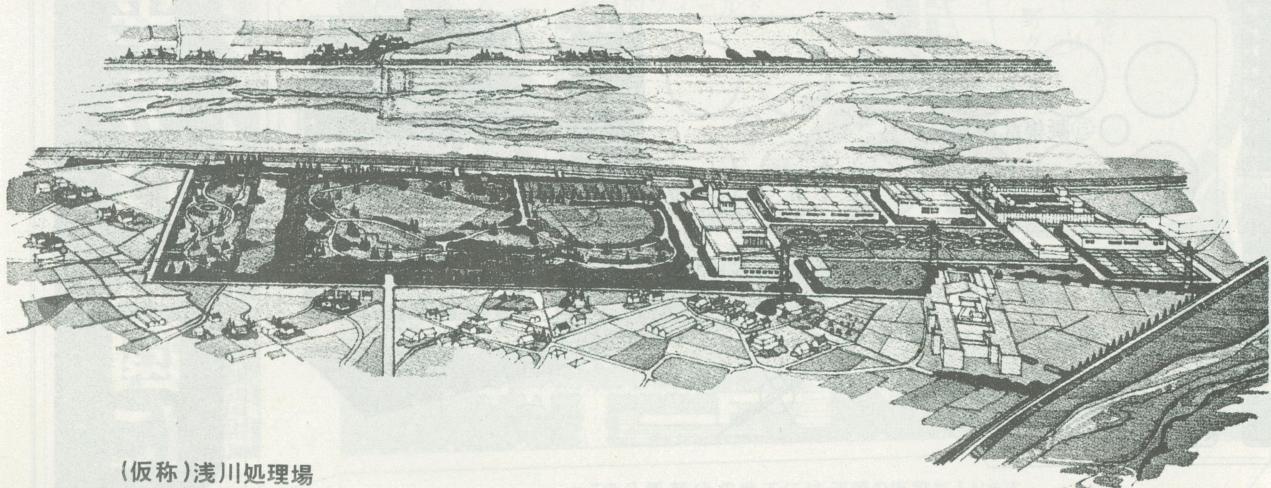
今年10月「日野市下水道事業基本方針」が決まり、いよいよ下水道完備に向けて第1歩を踏み出しました。

広報乙の

下水道事業基本方針決まる

歩みはじめた下水道事業

全文と解説二・三面に



(仮称)浅川処理場
完成予想図

綠豊かな公園処理場

この写真は浅川処理場（仮称）の完成予想図です。右下（南東側）は浅川で、その上の白い建物は都立日野高校、上部（北側）の川は多摩川です。この終末処理場は面積約16.4ヘクタールあり、その約半分の8ヘクタールは写真にみるような公園となります。この公園は処理施

設に覆（ふく）がい（＝ふた）をし、その上に土を盛って公園とするもので、国の基準ではこの土盛は60cmまでしか認められません。

しかし60cmの土盛では芝生や背の低い木しか植えられませんので、部分的には1.5m位の土盛ができるよう、市の働きかけを受けた都が、国と交渉を進めています。

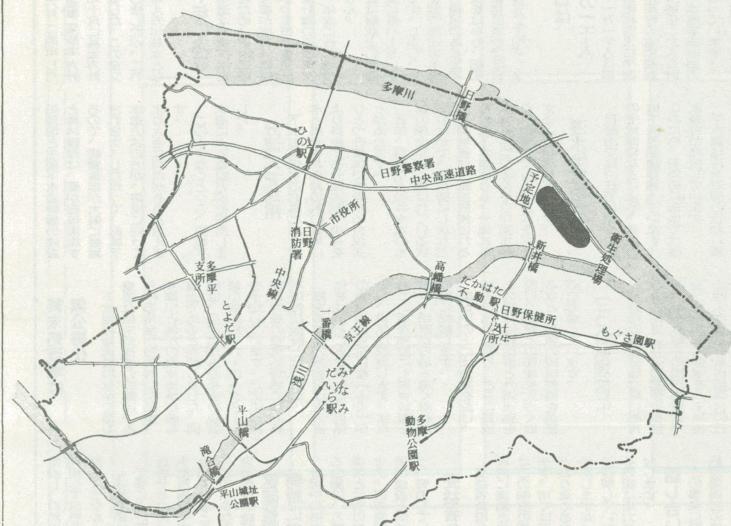
市の働きかけを受けて都が、国と交渉を進めています。
こうすることによって、地下の処理施設はより強固な構造が求められますが、高木を植えることができるようになり緑の多い公園をつくることができます。

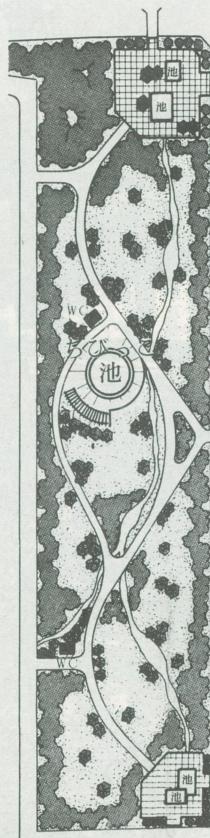
わしたなほりはあらず。ヨーロッパの都市部では、古くから下水道が設けられており、その歴史を聞きまじでいる。私は、それがなぜか、なぜか、ある種の距離をもつて指摘されています。

下水道の不備が、公害の一大原因であることは、誰もが知っています。しかし、それが、なぜか、なぜか、ある種の距離をもつて指摘されています。

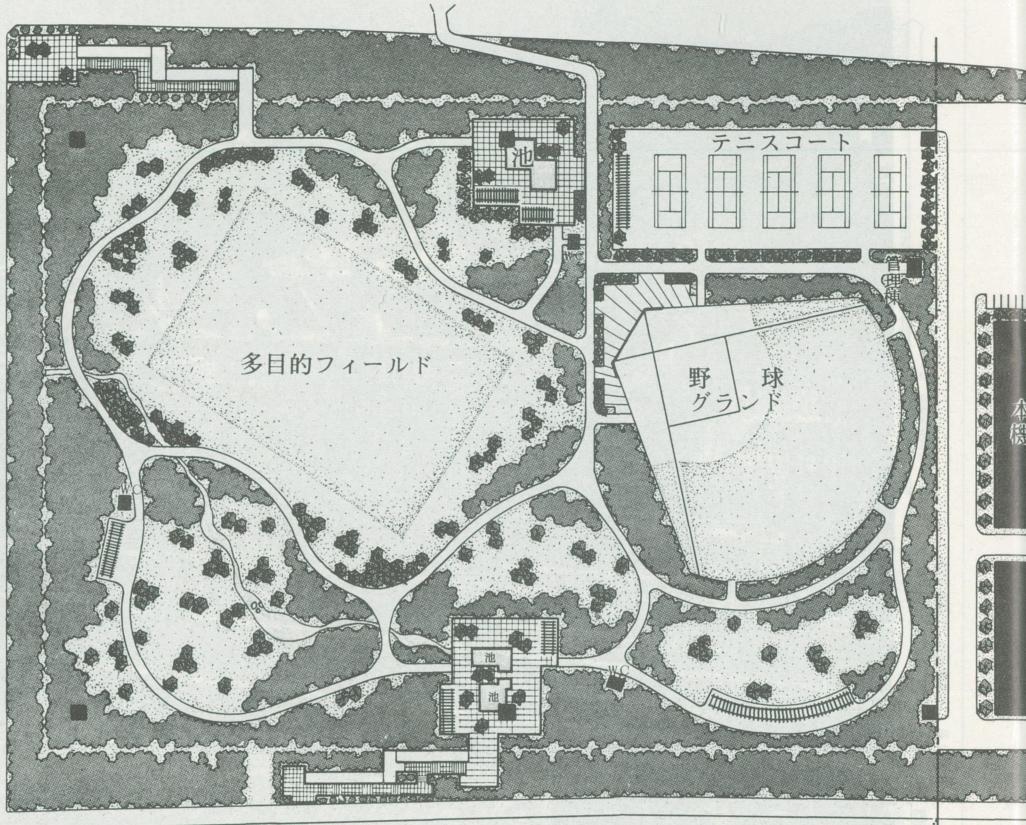
下水道整備に向って 全市民の決意と合意を!

(仮称) 浅川処理場位置図

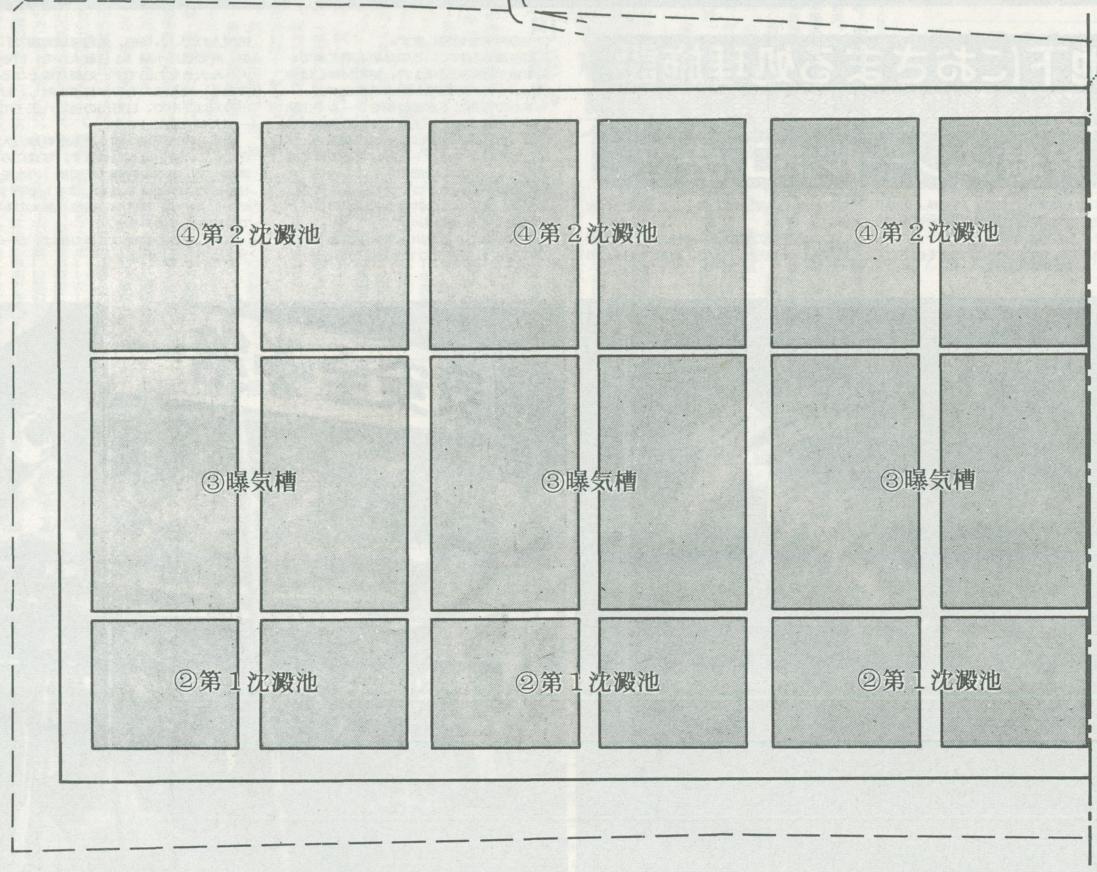




都市計画道路 1・3・1



※この公園部分の地下には下図の施設が入ります。



図の説明

三次処理でチツ

上の図は計画中の終末面図です。都市計画道路の地下には、左下の図左(西)側の公園は普通場に流入してきた污水はここで污水といっしょに

計画人口は、東京都が推定する多摩川、荒川等流域別する。都市計画人と整合性が高まることで、二千二万五千人とする。
三、建設方式 日野市公共用水道は、東京水盤構造で、建設費は、多摩川、荒川の合流域である。
その面は、三段階施設で、用地を必要最小限に施工する。
(1)ポンプ場は、本事業を推進するため、工場排水は、公共用水道へ投入される污水を、(2)曝気槽として、(3)沈殿池として、(4)最終的に、(5)出水口は、東京都が負担金を必要最小限に確保する。
たゞ、負担金を必要最小限では、関係住民からの意見と要望を十分取り入れ具体化をはかるよう積極的努力する。